

りそな経済フラッシュ

(紅海沿岸情勢)

2023年 12月 27日
 りそなHD 市場企画部
 担当：島崎

- 紅海ではイスラーム勢力「アンサール・アッラー（別名：フーシ派）」による攻撃の影響で船舶の航行が制限されている。同海域はスエズ運河を通過する際の航路となっており、物流のボトルネック化および物不足・物流コストの増加に伴うインフレ圧力の高まりが懸念されている。
- イスラエル籍の船舶及び関連船舶、ならびにイスラエル支援の諸国の船舶が攻撃対象となっており、米国中心の多国籍軍が警戒にあたっている。
- 日本の石油タンカーの多くは同海域を通過しないものの、貨物船は迂回や運休を余儀なくされており、今後の状況を注視したい。

紅海近辺



(図：報道等をもとに筆者が独自に作成)

※「アンサール・アッラー」とは

- ・シーア派の一派でイエメンを中心に活動する反政府勢力。かつての指導者の名から「フーシ(派)」と呼称されることも多い。イランが後方支援しており、隣国サウジアラビアとも対立。
- ・宗派の異なるイスラーム教徒との対立も多いが、活動の目的に「イスラエルの滅亡」を掲げるなど非常にイスラエルを敵視。
- ・イエメン北部を実効支配しており、軍部も掌握している。

- ・反イスラエル過激派イスラーム勢力のアンサール・アッラーが、パレスチナ支援およびイスラエル（とそれを支援する勢力）への抵抗を大義に、紅海沿岸でイスラエル籍の船舶および関連船舶、ならびにイスラエルを支援する西側諸国の船舶への攻撃や拿捕を行っている。
- ・同海域はスエズ運河の通過する際の航路となっており、世界の海上交易の約13%が通過。
- ・船舶の安全確保のため運行の停止やアフリカ南端を迂回する船舶も多く、物流の遅延及び物不足、輸送コスト増によるインフレの高まりが懸念されている。
- ・米国が主導となって多国籍軍を配備し警戒にあたるも、同軍への賛同は、イスラエルがパレスチナで行っている破壊と殺戮を国家として容認する姿勢だと受け止められかねないため、参加状況は芳しくない（日本も現状不参加）。
- ・エルニーニョ現象による干ばつで水位が低下し、航行制限を行っているパナマ運河に加え、スエズ運河の航行も制限されると、世界の海上交易網に大きな混乱をきたす可能性もある。
- ・日本の石油タンカーの多くは同海域を通過しないため、ただちに影響は出ていないものの、来春以降に物流の遅延や物不足などが表面化するおそれがある。

見解

- ・今回の紅海におけるアンサール・アッラーの活動（以下：本件）は、同地域における影響力を示すとともに、国際社会に対しイスラエル支援をためらわせる目的があるとみられる。
- ・本件は、紅海沿岸での突発的な事象ではなく、中東世界全域のイスラームとユダヤ（およびその背後にいる米国）の対立構造の中で起こった事象の1つである点に留意されたい。
- ・スエズ運河の通航料が重要な収入源であるエジプトや、沿岸国のサウジアラビアは本件に関し特段動きが見られない。沿岸警備への参画はイスラエル支持と受け止められることへの警戒か。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。